

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

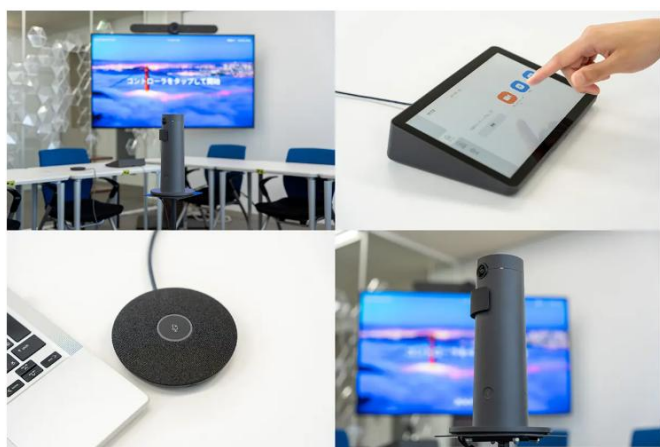
Vol. 27 No.9 2025 年 5 月 15 日

製品・サービス動向-国内

■伊藤忠ケーブルシステム：オンライン会議システム「EasyRooms」提供開始、AI 技術と高品質ハードウェアでオンライン会議の課題を可決

（PRTIMES:5月13日）

伊藤忠ケーブルシステム株式会社（<https://www.itochu-cable.co.jp/>）（東京都品川区）は、AV システムインテグレーターの Avidex 社（<https://www.avidex.com/>）（米国・ノースカロライナ州）が開発したオンライン会議システム「EasyRooms」の提供を開始した。



EasyRooms（伊藤忠ケーブルシステム）

近年、オンライン会議ツールを通じて社内外と打ち合わせを行うことが一般的になっている。しかし、会議ツールの立ち上げに時間がかかり、会議を時間通りに開始できなかったり、事前に準備が必要となったりすることがある。また、音質や画質の不要が会議の進行を妨げることがあり、会議室からの参加者とリモート参加者の間で発言のしやすさに差が生じることもある。

EasyRooms は、AI 技術と高品質のハードウェアを活用し、オンライン会議におけるさまざまな課題を解決することを目指している。

EasyRooms は、会議室に専用コントローラー、モニター、カメラ、スピーカー、マイクを常設し、普段使用のスケジューラーと連携させることで、会議開始時刻にコントローラーをワンタッチするだけで、ビデオ会議を迅速に開始できる。ユーザーフレンドリーでシンプルな操作性が特長のひとつ。



リモートサポートプラットフォーム「Avidex Assure」

（伊藤忠ケーブルシステム）

AI による高度な集音機能とノイズキャンセリング機能により、クリアな音声でのコミュニケーションを実現する。加えて、AI ビデオインテリジェンスを活用し、高画質かつ臨場感のある映像を提供する。話者を特定し、自動でフォーカスすることで、より自然な会議体験をサポートする。

マイクにおいては、追加マイクによって集音範囲の拡大と雑音・エコーを排除し、会話のみをキャプチャーすることにより、大規模な会議でも高音質かつ効率的な音声伝達を可能にする。

高音質な会話集音により AI 音声認識ツールを使用し、リアルタイムで正確な文字起こしと議事録の作成を行

い、会議内容の共有を素早く行える。

一方、伊藤忠ケーブルシステムが提供するマネージドサービスを通じて、リモートでお客様の AV システムを監視し、予防保守やシステムヘルスチェックを行う。不具合発生時には、リモートで故障診断やトラブルシューティングを提供し、迅速な修理や代替機の貸出しを通じて、運用可能な状態に速やかに復元する。加えて、会議室の稼働率、参加人数、オンライン会議かローカル会議かのモニターも行い、定期的にレポートを行うことで、オフィス DX による執務空間の効率化改善を可能にするという。

なお、伊藤忠ケーブルシステムは、EasyRooms を今後 3 年間で 100 室に導入することを目指している。

■ZVC Japan: エージェント機能を拡充し、「Custom AI Companion」や「Zoom Tasks」などを新たに提供開始

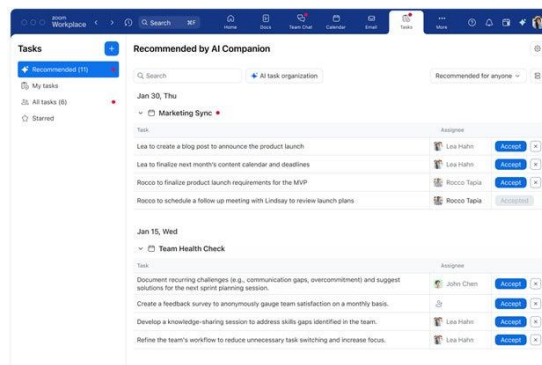
(PRTIMES: 4 月 25 日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://www.zoom.com/ja>) (東京都千代田区) の親会社である Zoom Communications 社 (米国・カリフォルニア州) は、「Zoom Workplace」全体にエージェント機能を追加し、Custom AI Companion アドオン、ボイスレコーダー、Zoom Tasks、カスタムアバター、さらに、Zoom Meetings、Zoom Teams Chat、Zoom Whiteboard、Zoom Revenue Accelerator など、エージェント型 AI の可能性を実現する新機能の提供を開始した。

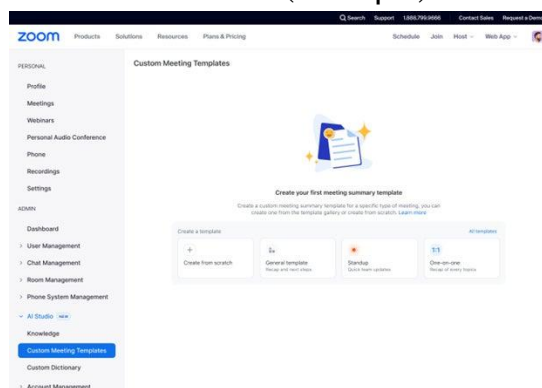
AI Companion は、Outlook、Office、Gmail、Google カレンダー、Google ドキュメントなど、ユーザが日常的に使用するアプリと連携し、Zoom Workplace 全体でパーソナルアシスタントとして機能する。また、先月には AI Companion にエージェント機能が追加され、ユーザからの最小限の入力で理解、計画、実行ができるようになった。生産性とコラボレーションを促進する AI ファーストのソリューションを提供する。

Zoom Workplace 全体で Zoom AI Companion を活用し、効率的に仕事をこなすことができるようになる。

Zoom AI Companion は、タスクを整理することで 1 日の中で重要な時間を節約し、仕事の規模を拡大したり、Zoom Meetings や対面での会話中にメモを取るなど、多くのことを可能にする。これにより、ユーザは最も重要な業務に集中する時間を確保することができるという。



ユーザの ToDo リスト管理をサポートする
Zoom Tasks (ZVC Japan)



Zoom AI Studio を使用し Custom AI Companion アドオンでミーティングの要約テンプレートを作成(ZVC Japan)

Zoom AI Companion、Zoom Meetings、Zoom Spaces、Zoom Team Chat の機能強化により、コラボレーションを合理化する。たとえば、Zoom Teams Chat では、特定の AI スキル用に最適化された独自の小規模言語モデル(SLM)を使用し 8 言語 (ドイツ語、スペイン語など) から英語への翻訳精度を向上させた。

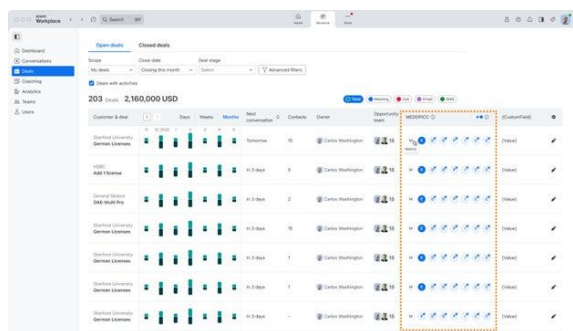
また、有料アドオンである Custom AI Companion を使用して、組織独自のニーズに対応し、組織全体の効率性を向上させるために AI エージェントとスキルをカスタマイズできるようになった。なお、Zoom AI Studio は、管理者が組織に合わせて Zoom AI Companion をカスタマイズできる、ローコードのド

ラック&ドロップビルダ。Custom AI Companion は今夏にはさらに多くの機能が追加される予定。

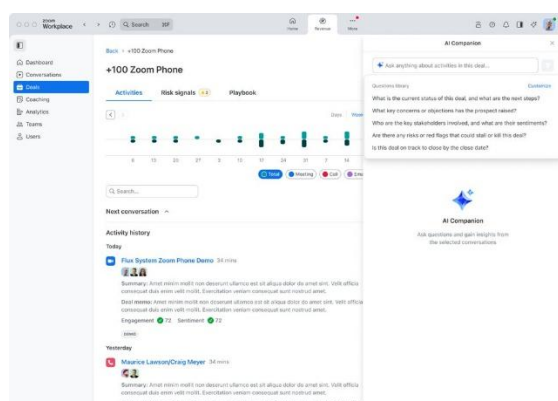
Zoom Whiteboard 関連では機能さらに簡単に。Miro、Mural、Lucid のボードを簡単に Zoom Whiteboard に変換できるようになった。付箋や絵文字を使った追加がこれまで以上に簡単になった。さらに Whiteboard の内容を要約することもできるようになった。

そのほか、Online Fax、Zoom Phone for Microsoft Teams、Zoom+Salesforce アプリ、Zoom AI Companion を搭載した Workvivo AI などでもよりよいコラボレーション実現のための機能強化されている。

一方、Zoom Contact Center において、カスタマーエクスペリエンス(CX)の機能強化には、エージェントのスケジュール管理や人員配置の予測に、柔軟性、正確性、効率性をもたらす新たなワークフォース管理機能が含まれている。人員ニーズを正確に予測したり、エージェントの配置を最適化したり、複数の予測シナリオを作成、動的な日次スケジューリング機能強化、エージェントの希望スケジュール設定などがある。



AI playbooks は営業プロセスを合理化(ZVC Japan)



deal explorer で営業のインサイトを収集し時間を節約
(ZVC Japan)

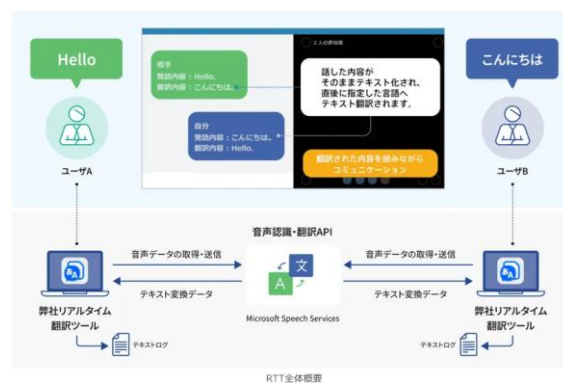
Zoom Revenue Accelerator の最新バージョンでは、AI によるインサイトと自動化を活用し、業務の効率化を図ることで、チームがより一貫性と確信をもって迅速に取引をまとめることを支援する。たとえば、新しい AI playbooks 機能では、BANT、SPICED、MEDDIC などの管理者が設定した営業手法に基づき、営業担当者の代理としてバックグラウンドで稼働する常時稼働型エージェントが導入された。また、deal explorer の導入により、営業チームは自然言語クエリを通じて重要な営業のインサイトを抽出できる。

業界向けソリューションの拡充も行った。小売、製造、医療、警察署、消防署といった緊急対応車などの業界の第一線で働く人々のニーズに合わせた2つの新製品を発表した。現場の従業員のために設計された Zoom Workplace for Frontline、医療向け AI テクノロジーのリーダ企業である Suki との提携による Zoom Workplace for Clinicians がある。

■フェアユース：Web 会議のための「Real Time Translator」の新バージョンをリリース

(@Press：5月7日)

フェアユース株式会社 (<https://fairuse.jp/>) (東京都渋谷区) は、「Real Time Translator」(<https://fairuse.jp/real-time-translator/>) (リアルタイム翻訳ツール) に「自動言語識別機能」と「文字起こし校正機能」を追加搭載し、新バージョンをリリースする。



Real Time Translator の全体概要 (フェアユース)

導入利用動向-国内

■Bloom Act：SMBC 日興証券がオンライン商談システム「ROOMS」の利用を開始

(PRTIMES:5月13日)

株式会社 Bloom Act(<https://www.bloomact.co.jp/>)

(茨城県つくば市)は、SMBC 日興証券株式会社(<https://www.smbcnikko.co.jp/>) (東京都千代田区)がオンライン商談システム「ROOMS」(<https://www.rooms-online.jp/>)を導入したことを発表した。



SMBC 日興証券、ROOMS 導入 (Bloom Act)

窓口のオンライン化が急速に進む金融業界(銀行・証券・保険など)で特に ROOMS の導入が加速的に進んでいる。Zoom、Teams、Webex といった、海外製 Web 会議システムがビジネスシーンでメジャーに使われるようになった中、国産のオンライン接客専用システム ROOMS が選ばれている理由は以下の通り。

(1) インストール不要、ワンクリックで簡単に接続できる高いユーザビリティ。(2) URL、カレンダー予約、ルームキー入室、ダイレクトコールといった豊富な接続方法。(3) 海外製品にはない国産サービス独自のプレゼン機能搭載。(4) 国内最高レベルの高セキュリティ。(5) 金融業界での導入実績・サポート実績が豊富。

機能としては、4 地点同時接続、名刺お渡し、デスクトップ共有、プレゼンモード、カレンダー連携、商談履歴、予約受付、録音録画、アンケート、Salesforce 連携、アクセス解析タグ設定、電子契約機能など豊富な機能を提供している。

なお、セキュリティについては、サービス提供に関わるすべての通信を、銀行の取引やクレジット決済にも使用される TLS1.2 及びそれに準拠する形式でエンド

Real Time Translator は、リアルタイムに文字起こしや翻訳することができるソフトウェアおよび Web アプリケーション。日本マイクロソフト、アッヴィ合同会社、ミルボン、川崎重工業などでの導入契約の実績があるという。同社製品が選ばれる理由は、高度なセキュリティ、ChatGPT と同じ生成 AI である Azure OpenAI を活用、米国特許取得した使い易い字幕表示の3つになる。



Real Time Translator の利用シーン (フェアユース)

Real Time Translator は、フェイスツーフェイスでの会議はもちろん、昨今では日常となった Web 会議でのやり取りを音声認識技術でリアルタイムに文字起こし、翻訳することが可能。

自動言語識別機能は、会議の最中で発話されている言語を自動でリアルタイムに識別し、手動での変更の手間なくスムーズに利用できる機能。また、文字起こし校正機能は、発話内容を文字起こしした際に、誤字・脱字や文法の誤りをリアルタイムに生成 AI が修正し、より正確で読みやすいテキストと翻訳結果を提供する機能となっている。

* Real Time Translator(リアルタイム翻訳ツール)
Version 3 製品紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=JCIXMtUdQUY>

* 製品説明オンラインセミナー (毎週火・木)

<https://fairuse.jp/real-time-translator/seminar/>

ツーエンド暗号化（E2EE）している。また、通信の中継・データの保管を行うサーバもすべて国内設置。また、第三者機関による定期的なセキュリティリスクチェックに加え、WAF（Web Application Firewall）による通信の監視・保護も 24 時間実施するなど、セキュリティ最優先の運用を行っているという。さらに、IP アドレス制限、二段階認証、パスワード定期強制変更機能もオプション（無料）でつけられるため、各企業のポリシーに沿った運用が可能となっている。



ROOMS (Bloom Act)

なお、情報セキュリティの国際規格 ISO27001(ISMS 認証) も取得しており、システムだけでなく、運営会社としても適切な情報管理を行っている。多くの大手企業・金融機関のセキュリティ審査を通過しているセキュアなオンライン商談システムとなっている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Q-SYS NV シリーズ ビデオエンドポイントを活用した設計

開催：5 月 16 日（金）16:00～ ※60 分予定

会場：オンライン

主催：QSC

詳細・申込：<https://lnd.qsc.com/jp-apac-2025-05-16-DesigningwithQ-SYSNVSeriesVideoEndpoints.html>

■ブイキューブセミナー情報（5 月）

「もう音漏れに悩まない！個室ブースの防音体験会!!」

「Zoom の電話って何?」「ビジネス電話改革！クラウド PBX でどう変わるのか?」「ウェビナー開催入門」など

会場：オンライン/オンデマンド/東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（5 月）

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

オンライン会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月 2 回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X（旧：Twitter）（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

お知らせ（重要）

ー配信システムの変更について：

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を 2024 年 10 月末号にて終了いたしました。今後

は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）、facebook ページ、dtc-forum メーリングリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト

<https://cnar.jp>

>X(旧ツイッター)

<https://x.com/cnarjapan>

>facebook ページ

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

>メーリングリスト（dtc-forum）

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

■CNAレポート・ジャパン 2025年5月15日号

ホームページ: <https://cnar.jp>

お問い合わせ: inquiry@cnar.jp